

令和 8 年度「子どもたちの豊かな学校生活のために～いじめ解消・暴力根絶旬間（第 1 回）」～ 取組結果について

<取組の趣旨>
 ○児童・生徒自身がいじめに気付き、いじめを自分のこととして考え、行動することとおして、自らいじめを解消する力を身に付けること。
 ○児童・生徒が主体的な取組を図れるよう各学校で創意工夫を図るとともに、いじめの実態を把握するためのアンケートを必ず実施し、いじめの未然防止と早期解決に向けた取組を強化し、地域・保護者への啓発を図ること。

1 認知件数（学年別・男女別の結果を含む） ※昨年度比で増加した項目の数値に下線。以降同様。

小学校 認知件数(学年・男女別内訳)														(件)
<総計>		内訳	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
R7	R8		R7	R8	R7	R8	R7	R8	R7	R8	R7	R8	R7	R8
839	787	男子	65	82	128	90	102	98	92	76	55	48	35	42
		女子	80	78	87	77	63	68	67	54	39	37	26	37

<小学校の認知件数について>
 ○昨年度に比べ、認知件数は52件減少し、児童1000人あたりのいじめの認知件数は96.2件（R7は97.5件）だった。
 ○学年・男女別で見ると、6年生が男女ともに増加しており、2年生・4年生・5年生は男女ともに減少した。

3 発見のきっかけ

区分(件)		小学校		中学校	
		R7	R8	R7	R8
教職員等による発見	学級担任	81	46	1	<u>7</u>
	学級担任以外の教職員(養護教諭、SC等の相談員を除く)	8	1	0	<u>7</u>
	養護教諭	1	0	1	0
	SC等の相談員	0	0	0	0
教職員以外からの発見	今回のアンケート調査による発見	570	568	57	41
	本人からの訴え(アンケート以外)	132	121	8	8
	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	29	38	6	1
	児童生徒(本人を除く)からの情報	14	8	0	0
	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	4	5	2	2
	地域住民からの情報	0	0	0	0
	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0	0	0	0
その他(匿名による投書など)		0	0	0	0

<発見のきっかけについて>
 ○昨年度同様、いじめ発見のきっかけとしてアンケート調査が大部分を占めていることから、**アンケート調査が有効**であることがうかがえる。
 ○小学校では、教職員等による発見が減少した。一方、「当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え」や「保護者（本人の保護者を除く）からの情報」が増加した。
 ○中学校では、**教職員等による発見が大きく増加**した。学級担任や学年担任団が生徒の様子を丁寧に見取るなど、いじめの早期発見の意識が高まったと考えられる。

5 期間中の各学校の取組

<小学校>※抜粋
 ○ふれあい月間に合わせて、**道徳の授業**等でいじめを題材にした教材を扱った。
 ○**学校いじめ対策委員会**での情報共有および対応についての検討
 ○いじめ防止対策の理解を深めるための**校内研修**
 ○**学校だより**にて、いじめ解消・暴力根絶旬間についての話といじめ・暴力についての記事を掲載し、保護者に周知した。
 ○様々な教科の中で、互いのよいところや頑張っているところを**認め合う学習**を取り入れる。
 ○弁護士による**いじめ防止授業**を行う。
 ○**嫌なことがあった時の対処方法**の指導
 ○学級担任が、**児童一人一人と個別に面談**を行った。
 ○保護者会で、**保護者へ向けて「いじめ防止基本方針」について説明・周知**をした。
 ○毎月第3木曜日を「いじめみのがさあずでい」に設定し、校内放送で呼びかけを行ったり、「いじめみのがさあずでい」当日に、**本校独自のアンケート**を行ったりした。

中学校 認知件数(学年・男女別内訳)														(件)
<総計>		内訳	1年		2年		3年							
R7	R8		R7	R8	R7	R8	R7	R8						
75	66	男子	33	27	13	18	5	3						
		女子	12	9	8	6	4	3						

<中学校の認知件数について>
 ○昨年度に比べ、認知件数は9件減少し、生徒1000人あたりのいじめの認知件数は17.8件（R7は19.8件）だった。
 ○学年・男女別で見ると、2年生男子のみ増加しており、1年生と3年生は男女ともに減少した。

4 いじめの態様

区分(件)	アンケートで発見				アンケート以外で発見			
	小学校		中学校		小学校		中学校	
	R7	R8	R7	R8	R7	R8	R7	R8
冷やかしかやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	301	326	33	30	181	126	9	14
仲間はずれ、集団による無視をされる。	80	64	7	2	34	14	1	3
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	153	127	14	8	89	81	5	5
ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする。	0	0	0	0	0	0	0	0
金品をたかられる。	0	4	0	0	0	1	0	0
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	18	19	2	0	4	16	1	0
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	86	52	5	5	13	16	2	4
パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	3	9	5	0	0	2	22	1
卑わいなことを言われたり、身体を触られたり、性的な動画・画像を撮影・送信されたりするなど、性的な嫌がらせや性的な行為をされる。(R8新設)		0		1		0		1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0

<いじめの態様について>
 ○小中学校ともに、「冷やかしかやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。」が一番多い。
 ○**小学校では、「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。」が増加**した。このことは、早い時期からパソコンや携帯電話等、各種機器を扱うようになったことによるものと考えられる。一方、**中学校では大きく減少し、1件**となった。各種機器の安全な扱い方に関する指導が浸透してきたことによるものと考えられる。
 ○国の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」に準じて、「卑わいなことを言われたり、身体を触られたり、性的な動画・画像を撮影・送信されたりするなど、性的な嫌がらせや性的な行為をされる。」を新設した。今回は中学校で合計2件を計上した。

2 現在の状況

	認知件数(件)		解消済(件)		解消率(%)	
	R7	R8	R7	R8	R7	R8
小学校	839	787	781	633	93.1	80.4
中学校	75	66	61	45	81.3	68.2

<現在の状況について>
 ○昨年度に比べ、**解消率は小中学校ともに減少**した。このことは、学校が「いじめの解消」の判断要件(※)に基づき、いじめの状況を慎重に評価し、対応していることによるものと考えられる。

※「いじめの解消」の判断要件(立川市いじめ防止基本方針より)
 ①いじめに係る行為が少なくとも三か月以上止んでいる。
 ②いじめの被害児童・生徒が心身の苦痛を感じていない。

6 まとめ

○認知件数や、「教職員等による発見」の件数が減少していることから、**いじめの早期発見に対する教職員等の意識を高める取組**が必要である。
 ○各学校において、多様な発達支持的生徒指導や課題予防的生徒指導がなされている。**生活指導主任会等において、互いの好事例を生かし合えるように**する。また、地域・保護者への啓発を継続していく。
 ○「**SOSの出し方に関する教育**」を推進していく。

<中学校>※抜粋
 ○**いじめ相談窓口**の設置
 ○**いじめは自分一人では解決できないことを伝え、躊躇せずにアンケートに回答**してもらるように話をした。
 ○**全校で、同じ教材を扱いたいじめについての道徳アンケート**に対して、コメントがあった生徒への個別対応
 ○**セーフティ教室（SNSの利用について）**、いじめ防止教室、いじめ防止授業等の実施
 ○アンケートの実施と同時に、**相談機関の書かれたパンフレット**を全校生徒に配布
 ○全校朝礼で**悩みや困ったことがあったら大人に相談**するよう、生活指導主任から話をする。
 ○講師を招いて**いじめ防止授業**の実施
 ○**学年集会**における教師からの講話